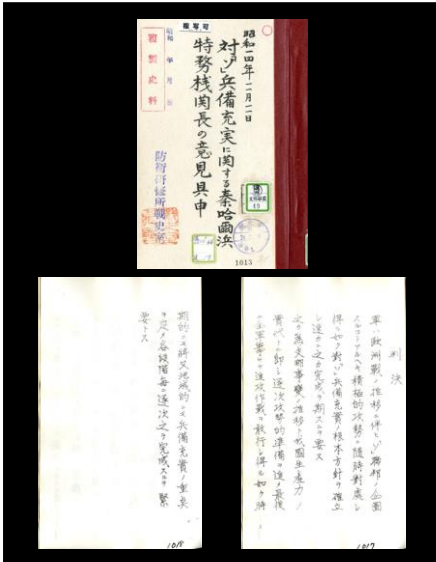


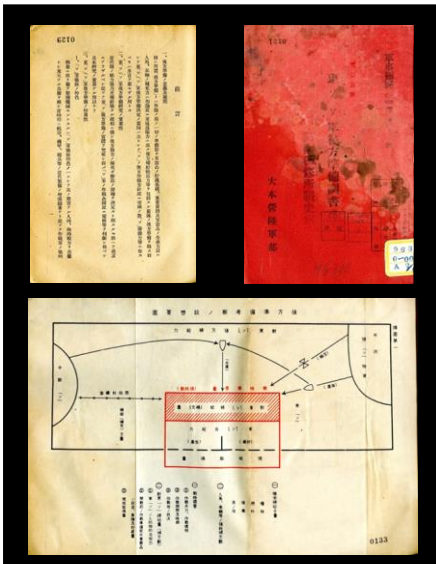
平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

はた ひこさぶろう
《 秦 彦三郎 1890～1959年 》
—三重県出身の陸軍中將—



秦哈爾濱特務機関長の意見具申 (登録番号：満洲支那事変-49)

秦彦三郎中將は、明治45年5月、陸軍士官学校(24期)を卒業後、参謀本部ロシア班長、ソ連大使館附武官等の要職を務めた後、昭和13年7月15日ハルピン特務機関長に就任、関東軍司令官植田謙吉大將より、「対ソ戦争ヲ考慮シ戦争及作戰ノ指導竝ニ謀略ノ実施ニ必要ナル資料ノ収集」などの任務を与えられます(「秦大佐に与うる命令 指示写送付の件」(登録番号：陸軍省-陸満密大日記-S13-16-76))。そして昭和14年11月11日、当時関東軍内にあった対ソ守勢の意見に対し、「全軍拳ケテ進攻作戰ヲ敢行シ得ル如ク時期的ニモ將又地域的ニモ兵備充実ノ重点ヲ定メ各段階毎ニ逐次之ヲ完成スルヲ緊要トス」とする意見を、関東軍参謀副長の飯村穰中將に提出しています。この史料は「対『ソ』兵備充実に関する秦哈爾濱特務機関長の意見具申」で、上記意見が記されています。



東「ソ」「ソ」軍後方準備調書 (登録番号：満洲全般-152)

ハルピン特務機関長を経て、関東軍参謀副長等の要職を務めた秦中將は、昭和20年4月7日、関東軍総参謀長に就任します。満州へのソ連軍侵攻が懸念されるなか、ここに本格的な対ソ持久作戰の準備が開始されました。この史料は、当時大本營陸軍部が作成した「東『ソ』『ソ』軍後方準備調書」(昭和20年4月調製)で、その「前言」において、「近代戦ノ総力戦乃至補給戦タル様相ニ徴シ後方戦力ノ優劣ガ勝敗ノ帰趨ヲ決定スト称スルモ敢ヘテ過言ニアラザルベシ」、従って「東『ソ』後方準備ノ実態ヲ究明シ得バ『ソ』軍ノ作戰企図竝ニ規模等ヲ判断シ得ベシ」としています。しかし4か月後の日ソ開戦時の関東軍の兵力は、80個師団以上の戦力を有するソ連軍に対し僅かに24個師団余り、これは従来からある師団の約8個師団相当の戦力でしかありませんでした。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp